

事業の 効果 等	事業期間	事業化	平成5年度	用地着手	平成12年度	供用年	(当初) - / -	変動	一倍	
		都市計画決定	-	工事着手	平成14年度	(暫定/完成)	(実績) H20 / -			
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) (実質値)	- / 570億円 - / 723億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) (実質値)	390 / -億円 391 / -億円	変動	一倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	(H19再評価時)	- / 20,200台/日	実績 (暫定/完成)	(H25)	11,900 / -台/日	変動	-%	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	43.4km/h → 78.3km/h (供用前年次)H17年度 (供用後年次)H22年度			交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	9件/年 → 5件/年 (H18) (H22)				
	費用対効果 分析結果 (再評価)	B / C	総費用	653億円 事業費：590億円 維持管理費：63億円		総便益	1,320億円 走行時間短縮便益：1,118億円 走行経費減少便益：129億円 交通事故減少便益：73億円		基準年	平成19年
	費用対効果 分析結果 (事後)	B / C	総費用	532億円 事業費：475億円 維持管理費：57億円		総便益	1,759億円 走行時間短縮便益：1,266億円 走行経費減少便益：328億円 交通事故減少便益：165億円		基準年	平成25年
	事業遅延によるコスト増		費用増加額	-		便益減少額	-			
	事業遅延の理由	・ 特になし								
	客観的評価指標に対応する事後評価項目	①円滑なモビリティの確保 ・ 現道の渋滞損失時間（整備前）66万人・時間/年 → （整備後）34万人・時間/年 ②個性ある地域の形成 ・ 登米市の観光入込客数増加（整備前）123万人/年 → （整備後）262万人/年 ③安全で安心できるくらしの確保 ・ 登米市から石巻赤十字病院（三次医療施設）間の所要時間短縮（整備前）43分→（整備後）31分 ④災害への備え ・ 緊急輸送道路である国道45号が通行止となった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する三陸縦貫自動車道								
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目	・ 環境影響評価実施要綱（昭和59年閣議決定）に基づき、環境影響評価を実施								
	その他評価すべきと判断した項目	・ 特になし								
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	○高規格幹線道路の整備状況 ・ 三陸縦貫自動車道 平成6年度 登米志津川道路 事業化 平成14年度 唐桑道路 事業化 平成18年度 本吉気仙沼道路 事業化 平成20年度 南三陸道路 事業化 平成22年度 唐桑道路 全線2車線開通 平成23年度 本吉気仙沼道路Ⅱ期、歌津～本吉、気仙沼～唐桑南、唐桑～陸前高田 事業化 ○その他の状況 平成23年3月11日 東日本大震災 発生 平成23年4月 仙台塩釜港 特定重要港湾から国際拠点港湾に変更								
	今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	・ 事業当初の目的に対し効果が発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はないと考える。								
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	・ 特になし								

その他特記事項

- ・特になし

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。